



学校だより

令和6年1月31日

学校教育目標

2月号

ともに学び、創り出し、行動する子＝輝く自分 輝く鶴小＝

横浜市立 鶴ヶ峰小学校 (<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/tsurugamine/>)



備えあれば

憂いなし・・・

副校長 丹野悦子

2024年 令和6年 今年は閏年。オリンピックイヤーです。新年は、能登半島地震という大きな天災で始まりました。お亡くなりになられた方のご冥福をお祈りし、被災した皆様にお見舞い申し上げます。一日も早く日常が戻りますように…。

日本は7つの火山帯を有する火山国です。「関東に大きな地震がくる」と言われて半世紀以上が過ぎました。有事に備え、学校では毎月避難訓練を行っています。いつどこで被災するかは誰にもわかりません。子どもたちには、どこにいても、万一の時は学校で行っている訓練を思い出し、自分の命を自分で守る行動をとってほしいと願って訓練を行っています。

「津波てんでんこ」の教訓にあるように、自分の命は自分で守ること。日ごろから自分の頭で考えて行動する力を養うことが大切です。家族と離れていても、てんでんこ(=ばらばら)に避難することができるようになること。地震などの大災害に見舞われた時、「家にいられなかったらどこに行けばよいのか。」「誰を頼ればよいのか。」「自分の住んでいる住所の避難場所はどこなのか。」「家族と連絡が取れないときはどうすればよいのか。」「携帯電話は使えなくても、きっと会える」という信頼関係を築いておくことが大切です。

自助・共助・公助。まずは、自助…自宅には、家族が3日間過ごせる備蓄が必要とされています。「家具の固定」、「飲料・食料の備蓄」、「非常用持ち出しバッグ(防災バッグ)の準備」、「避難場所・避難経路の確認」、「家族での防災会議」の5つの対策を個々の家庭で行いましょう。共助…地域コミュニティーを中心とした助け合いが必要です。学校では避難訓練。鶴ヶ峰の地域では小学校に備蓄倉庫を設け、地域防災拠点の組織や消防団、自治会町内会の防災活動も行われています。公助…国や自治体の公助の展開には発災後1週間はおかるといわれています。

自分の命・自分の家族を守ることに、ご家族で話し合ってみてはどうでしょうか。

今年の干支は甲辰(きのえ・たつ)です。「甲」は鎧、草木では固い殻を意味し、その殻を破って芽を出す状況を表す象形文字です。旧来のしきたりや慣習を破り、革新の道を進むべしという暗示です。災害に対してだけでなく、これからの社会を生きぬくために、学校でも子ども一人ひとりが自ら考えて行動できる「生きる力」を育ててまいります。

